



# 三田ヶ谷公民館だより

令和 8年3月1日  
発行 三田ヶ谷公民館  
TEL 565-0040

## “新しい本”がやってきました！

三田ヶ谷公民館に新しい本がやってきました！

季節の門出に、心に残る1冊を添えてみてはいかがでしょうか。



- ・『豊臣家の庖丁人』（木下昌輝・文藝春秋）
  - ・『国宝 上・下』（吉田修一・朝日文庫）
  - ・『あなたが犯人だったらよかったのに』（井上悠宇・ハヤカワ文庫）
  - ・『一次元の挿し木』（松下龍之介・宝島社文庫）
  - ・『大ピンチずかん3』（鈴木のりたけ・小学館）
  - ・『あるかしら書店』（ヨシタケシンスケ・ポプラ社）
  - ・『八雲さんとセツさんの怖い話。』（小泉八雲原作・柴田のぞみマンガ・Gakken）
  - ・『クイズでわかる生き残り大作戦！ 防災のサバイバル』（朝日新聞出版）
  - ・『新版 思考の整理学』（外山滋比古・ちくま文庫）
  - ・『心地よい自分が見つかる101の質問』（小林弘幸・日経ビジネス文庫）
  - ・『脳と心が休まる3分間おでこ瞑想』（藤井英雄・三笠書房）
- など多数！



### 3月の健康運動教室

日時：3月11日(水) 10時～11時 30分  
持ち物：タオル、飲み物  
場所：三田ヶ谷公民館 和室  
問合せ：健康づくり推進課

### 3月のはつらつ教室

日時：3月27日(金) 10時～11時  
持ち物：タオル、飲み物  
場所：三田ヶ谷公民館 和室  
問合せ：高齢介護課

mon tue wed thu fri sat sun

3月公民館休館日

毎週火曜日、3月 20 日

						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					



## 「いいでえー！！三田ヶ谷！ ～歴史と文化～」

### (第22回 弥勒の街道)

弥勒の円照寺や千代田駐在所の前を通り、東の加須市へ向かう道には、かつて商家や民家が多く建ち並んでいました。明治42年刊行の小説『田舎教師』にも、この道の一部が描写されています。

(前略) 少し行くと、人家が両側に並び出して、汚い理髪店、だるまでもいそうな料理屋、子供の集まった駄菓子屋などが目に留まった。ふと見ると平屋造の小学校がその右にあって、門に三田ヶ谷弥勒高等尋常小学校と書いた古びた札が懸かっている(第2章)

主人公のモデル小林秀三は、この弥勒の学校に明治34年4月から同37年9月まで、代用教員として勤務していました。なお、小説では学校から少し東へ行ったところに「傘屋」があったことが描写されています。

其処に傘屋があった。家中を油紙やしび皿や糸や小津具などで散らかして、その中央に五十位の中爺がせっせと傘を張っていた(同)

ほかにも、湯屋・米屋・綿屋・雑貨屋・餅屋・酒屋・穀屋・魚屋などの商家がありました。弥勒は加須市の大越河岸と羽生町場の途中に位置し、北方には利根川が流れ、複数の渡河点や河岸があったことから、古くから人が行き来する街道だったのでしょう。街道に面して小学校が建てられたのも、子どもたちが通学しやすい交通の利便を考えてのことかもしれません。作中で近くの駄菓子屋で子どもたちが集まっているという描写は、微笑ましくもありますが、子どもたちが集まりやすい場所だったのか、だとすると各所に通じていたのかなど、深読みのポイントになるのでしょうか。



この街道の思い出を持っている年輩の方はたくさんいらっしゃると思います。景色がさらに変わる前に、身近な人に話して聞かせてあげたいですね。

